

中学校 1年 社会科 (歴史)

考える
想像する

書く
読む

育成したい
国語力

複数の資料の情報から、当時の状況に気付き、現在の自分の経験や知識と結び付けて疑問点を出しながら当時の人々の生活や工夫に迫る。事実や経験と自分の汗顔替えをつながけながら、自分の言葉で分かりやすく書く。

単元名

「平安京」

～古代の水上交通を考える～

本時の目標

- ・写真や地図から、古代社会における水上交通の重要性に気付くことができる。(資料活用の技能・表現)
- ・古代社会の交通の様子や資材のリサイクルについて理解し、当時の人々の生活や工夫について考えることができる。(社会的な思考・判断)

本時の流れ

導入

身近にある石灯籠を写した写真から、「荷物船中安全」の文字に着目する。なぜ現在港のない場所に「荷物船中安全」を祈願した石灯籠があるのか疑問をもつ。

視点①

身近にある資料(石灯籠)に刻まれている文字から、現在の自分の経験や知識と結び付けて、生徒一人一人に疑問をもたせることが大切です。各自がもった疑問点は、ノートに書いて交流します。

展開

平城京で用いられた瓦が、現在も木津川から採集されるという事実を知る。

なぜ木津川から瓦が出てくるのか、その理由を考え、話し合う。理由を考える際、資料の「平城京」「長岡京」「木津川」に色を塗る作業を通じて、平城京と長岡京が木津川によって結ばれていることに気付く。

資料や現在の地図を比較し、木津が平城京の港としての機能を有していたことを理解する。

都が平城京から長岡京へと移されたことを復習する。

古代社会における水上交通の重要性や古代社会において柱などの資材はリサイクルされていたことにも気付き、当時の人々の生活や工夫について考える。

視点②

平城京で用いられた瓦が、現在も木津川から採集される事実から、その理由を自分の知識とつなげて考えたり、自分の考えを深めたりする力をはぐくむことができます。また、古代社会の生活の工夫に気付くことにより、現代社会におけるリサイクルとの共通点や相違点を明確にすることもできます。読むこととともに書くことを適切に位置付け、考える力を高めます。

まとめ

石灯籠が作られたのは江戸時代であることを知り、近代以降に鉄道が発達し現代に自動車が普及するまでは、内陸部においても水上交通は主要な輸送手段であったことを理解する。

視点③

現代とは全く違った交通体系を理解することを通じて、人々の生活を想像する力をはぐくむことができます。

教材等の例

資料 石灯籠の写真

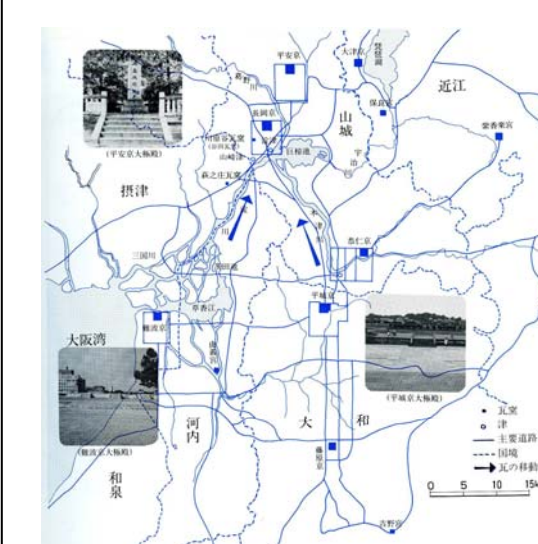


(京都府長岡京市)

資料 石灯籠の文字の写真

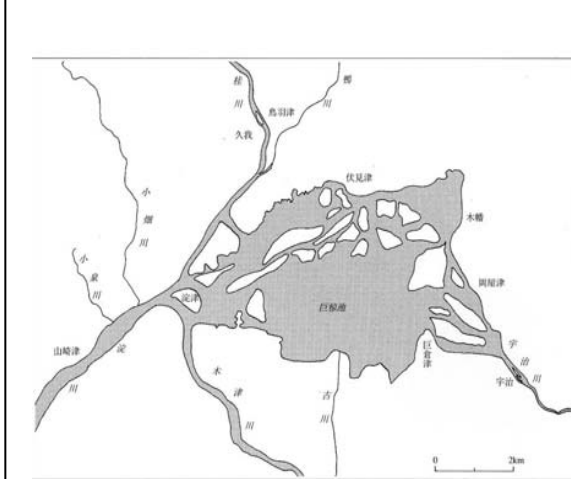


資料 古代都城の位置関係



(乙訓文化財事務連絡協議会「長岡京跡」より)

資料 近世以前の淀川周辺の地形



(大山崎町歴史資料館「はるかなる淀川」池本甚四郎編「巨椋池干拓誌」より)

国語力育成の視点

社会科では、一見何気ない身近なものの中にも、貴重な情報が詰まっています。そこから情報を正確に読み取り、現在の自分の経験や知識と結び付けて「なぜ？」の疑問をもったり、答えを見付け出したりして、考える力を育成することができます。

また、複数の資料をつなぎながら、「なぜ？」の疑問を解いていく作業を通して、資料を読み取ろうとする意欲や資料に対する関心を高め、想像する力を育成することができます。

読み取ったことや考えたことは、書くことを取り入れ整理をしたり、深めたりする必要があります。

これらのことにより、「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」という歴史的分野の目標を達成する一助にもなります。

低学年

中学年

高学年

中学前

中学後

国語

社会

数算
学数

理科

生活

外国語

活動
特別

道徳

総合
学習